

1人1台端末の活用による実践事例

学校名	県立岡山聾学校	実践者名	柴田 慎平
実践場面 (教科)	小学部「自立活動」		
単元・題材名	ロジカルライティング		
学習目標・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 理由を表現するときに気をつけて書くことができる。 接続詞を適切に用いて、文章を組み立てることができる。 説得力のある文章を構成することができる。 		
対象の児童生徒の 実態	<ul style="list-style-type: none"> 理由を書く時に「～だから」を書き忘れることがある。 定型文や手本があると、それを見ながら文章を組み立てることができる。 タブレットを使うことに慣れており、ローマ字入力ができる。 		
活用の概要（使用アプリ名を含む） ※写真も掲載する			
<p>① テーマを確認する。(例)朝食は、ごはんかパンのどちらがよいか。</p> <p>② アプリ「Jamboard」を使って、テーマに対する自分の考えをデジタル付箋に記入(入力)する。 (例)ごはんのよいところ・パンのよいところについて、それぞれ記入する。</p>			
<p>③ 児童同士で互いに発表をして考えを共有する。</p> <p>④ アプリ「ロイロノート」のシンキングツールを使い、自分が伝えたいこととその理由、具体例をまとめる。</p> <p>⑤ シンキングツールに、まとめたものと定型文や手本を見て、原稿用紙に自分の伝えたいことを書く。</p>			
<p>⑥ アプリ「Scannable」で原稿用紙をスキャンし、「ロイロノート」で提出する。そして、自分の伝えたいことを発表し、それらについて感想を述べる。</p>			
活用のポイント・改善策等			
<ul style="list-style-type: none"> 「自分や友達の考え(情報)を集め、共有する→シンキングツールを使って整理する→原稿用紙に文章で表現して、タブレットを使い共有する」の流れで行うことで主体的に取り組むことができた。 繰り返し行うことで、スムーズに文章を組み立てることができるようになってきた。 			